

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

霧島山（新燃岳）では、本日（3日）08時09分に爆発的噴火が発生しました。

本日、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て行った上空からの観測では、火口内に蓄積された溶岩は直径600m程度で昨日（2日）と大きな変化はありませんでした。

新燃岳火口から概ね4kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、直径4cmから6cmの小さな噴石は新燃岳火口から7km付近にまで達しています。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。

降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

○活動概況

・上空からの調査（図1）

本日（3日）午前、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て行った上空からの観測では、火口内に蓄積された溶岩は直径600m程度で昨日（2日）と比較して大きな変化はありませんでした。表面は平坦であり、火口内の溶岩中央付近の2ヶ所から噴煙が火口縁上1,000m程度まで上がっていました。

赤外熱映像装置¹⁾による観測では、火口内に蓄積された溶岩の中心部に非常に高温の熱異常域を確認しました。

・噴煙など表面現象の状況（図2、表1）

新燃岳では噴火が継続しています。噴煙の最高高度は2,500mでした。

本日08時09分に爆発的噴火が発生し、噴煙が火口縁上1,500mまで上がり、東に流れました。大きな噴石および火砕流は確認されませんでした。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

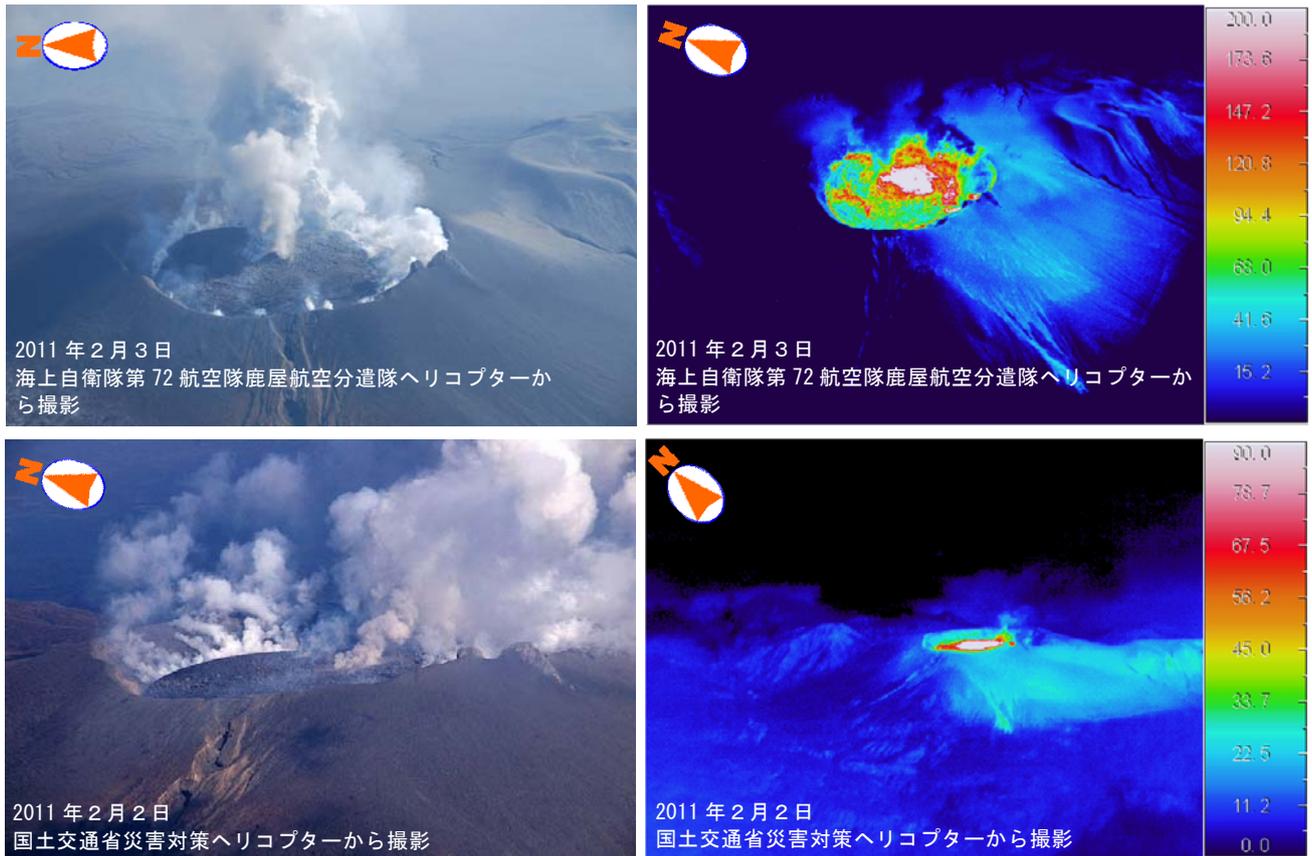


図 1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況及び本日の赤外熱映像装置による火口付近の表面温度分布

- ・火口の中心部に非常に高温の熱異常域を確認しました。
- ・火口内に蓄積された溶岩は直径 600m程度で昨日（2日）と大きな変化はありませんでした。



図 2 霧島山（新燃岳） 噴火の状況（遠望カメラ：新燃岳の南西約 7 km）
3 日 08 時 09 分の爆発的噴火に伴い灰白色の噴煙が火口縁上 1,500mまで上がり、東に流れました。

表 1 霧島山（新燃岳）で発生した爆発的噴火の一覧（2011 年 2 月 3 日 18 時現在）

No	爆発観測時刻				噴 煙				地震計振幅	空振計 振幅	噴石飛散 距離
									新燃岳南西	湯之野	
	月	日	時	分	色	量	高(m)	流向	[μ m/s]	[Pa]	[m]
1	1	27	15	41	灰白色	多量以上	2500 以上	南東	3,327	39.7	不明
2	1	28	12	47	灰白色	中量以上	1000 以上	東	773	81.8	不明
3	1	30	13	57	不明	不明	不明	不明	829	21.7	不明
4	2	1	7	54	不明	多量	2000	南東	3,767	458.4	3200
5	2	1	23	19	不明	やや多量以上	2000 以上	直上	3,541	185.5	不明
6	2	2	5	25	不明	やや多量以上	2000 以上	北東	3,408	299.6	不明
7	2	2	10	47	灰白色	少量以上	500 以上	東	1,501	86.5	不明
8	2	2	15	53	灰白色	多量	3000	東	5,306	72.4	1000
9	2	3	8	9	灰白色	中量	1500	東	963	26.0	不明

※爆発地震を伴い、空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。